

サルコペニア患者における栄養療法確立のための基盤構築研究

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 畑本陽一（2024年度～2026年度）

研究開発目的

サルコペニアは、加齢などによって筋肉量や筋力が低下した状態です。改善のためには十分な栄養摂取が重要ですが、食事から摂るエネルギーを増やすこと自体が、筋肉量や身体機能の改善につながるのかは十分に分かっていません。そこで本研究では、サルコペニアを有する高齢者を対象に、普段の食事に一定量のエネルギーを追加し、身体組成や身体機能にどのような変化が生じるのかを明らかにします。

取り組み

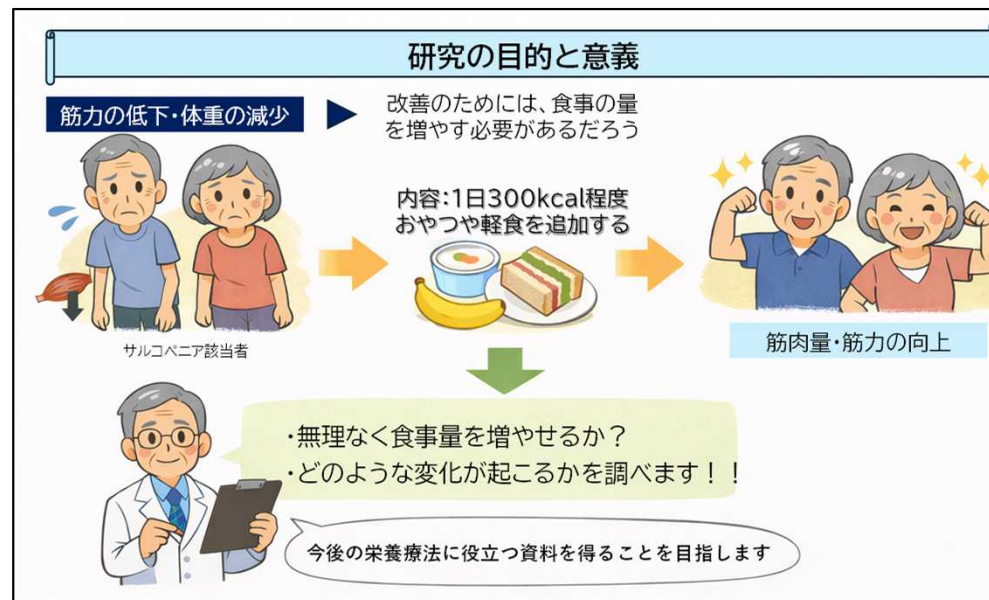
サルコペニア該当者を対象に、普段の食事に約300 kcal/日の補食を12週間追加し、体重、筋肉量、筋力などの変化を評価します。

成果

現在、サルコペニア該当者に補食を提供する介入研究を進めています。

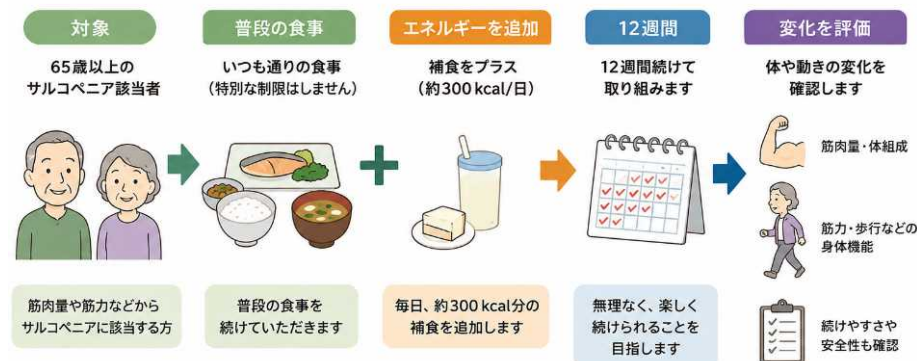
今後の展開

エネルギー摂取量の増加による身体組成・身体機能への影響と、日常生活で継続可能な介入であるかを検証し、実践的な栄養療法の構築につなげます。



具体的には、以下の研究を通して、体の変化を検証します。

エネルギー付加型食事介入研究の流れ



エネルギーを少しプラスすることで、筋肉や体の動きにどのような変化があるのかを検証します